

【水彩画クラブ27】卒業後7年目の活動 2019年3、4月

◇第136回活動:2019年3月25日(月) 午後1時から ヌエック本館 試食室

前回まで習作してきた課題『智光山・雪の岸边』、自宅で夫々仕上げてきた作品を白板に貼り出して、内ちゃん先生の画評をいただいた。

今日の活動から新たな課題『芦ヶ久保の氷柱』を習作していく。

1. 右側下方の角から描いていく。

① 真っ白な雪部分にマスキングをしていく。

(a) 明るめの影になる境目には予め水を塗っておいて、マスキング線がボケるようにしておく。

(b) 細いマニキュアペンの柄に接着テープを一巻きしてストローに差し込み、長めの柄にしたマスキングペンで、粉を散らしたような雪の状態を描くようにマスキングしていく。

② マスキングインクをドライヤーで乾かしてから、青い雪の影色を塗っていく。

(a) 青色をパレットに水溶きしておく。

鮮青色、「そらいろ」、深青色

(b) 鮮青色を小筆に取り、白い雪下の明るい影部分に、淡く塗っていく。

(c) ドライヤーで十分に乾かしてから、明るい影部分に課題写真を見ながら、マニキュアペンでダブルマスキングしていく。

(d) 「そらいろ」や濃紺色を小筆に取り、課題写真を見ながら、次に明るい影、濃い目の影などを塗っていく。

(e) 雪を被った岩と岩の間に見える濃い影部分に、水彩色鉛筆(ユニ)の深青色で影部分を軽く描いていき、直ぐに水筆で塗り広げるように整えていく。

③ 今日描いてきた部分の左下のツララが垂れている暗い部分に、深青色と暗青色を混色し、紫色と黒っぽい紫色を混色して、濃い影色をつかって課題写真を見ながら細い小筆で塗っていく。

2. 次回(4月8日(月))の活動予定 ヌエック本館 試食室

次会の活動は、左側下部の雪柱を描いていくので、デッサンしておくこと。

内ちゃん先生から、「3回の活動で仕上げていく予定なので、次回活動後に各自自宅で上部半分に見える雪景色を仕上げてください」と話された。

◇第137回活動:2019年4月8日(月) 午後1時から ヌエック本館 試食室

冒頭、会計担当の木村さんから水彩画クラブと旅行積立金の収支報告書が配られ、全員で承認した。会計担当が新たに黒澤さんに引き継がれた。

課題『芦ヶ久保の氷柱』の2回目

1. 左側の上から下までの4マスを描いていく。

① 真っ白な雪部分にマスキングしていく。

(a) 明るめの影になる境目には予め水を塗っておいて、マスキング線がボケるようにしておく。

(b) 細いマニキュアペンの柄に接着テープを一巻きしてストローに差し込み、長めの柄にしたマスキングペンで、粉を散らしたような雪の状態を描くようにマスキングしていく。

(c) ツララが垂れ下がるところの白い部分にもマスキングする。

垂れ下がっている長いツララの白く光っている部分に、線を引くようツララの形に書くように細くマスキングをしていく。※右側の短いツララは描かない。

(d) 3マス目の左端に見える白っぽいところに、マニキュアペンで周囲をぼかしながらマスキングしていく。

最下部の左角から斜めに伸びる雪を被った岩の白っぽく見える部分にも、周囲をぼかしながらマスキングペンやマニキュアペンでマスキングしておく。

② 施してきたマスキングインクをドライヤーで乾かしてから、青い雪の影色を塗っていく。

(a) 青色をパレットに水溶きしておく。

鮮青色、空色、深青色

(b) 鮮青色を小筆に取り、白い雪下の明るい影部分に、淡く塗っていく。

下に伸びる長いツララも同じ鮮青色で淡く塗っていく。

(c) ドライヤーで十分に乾かしてから、明るい影部分に課題写真を見ながら、マニキュアペンでダブルマスキングしていく。

長いツララにも淡い部分に細いマスキングペンで描くようにマスキングしておく。

(d) 下部左端部分と長いツララの間に見える濃い影部分に、三菱ユニの水彩色鉛筆・深青色で軽く描いておく。

(e) 空色や深青色を小筆に取り、課題写真を見ながら、次に明るい影、濃い目の影などを塗っていく。

濃く見えるところには濃い目の青色に紫色を混ぜた色で塗っていく。

③ 4マス目の左角から斜めに伸びる雪を被った岩の上と下に見える黒い部分に、深青色と暗青色を混色し、紫色と黒っぽい紫色を混色して、濃い影色をつかって課題写真を見ながら小筆で塗っていく。

2. 次回(4月22日(月))の活動予定 ヌエック研修棟 207号室

次回はメーンの垂れ下がる氷柱を描いて仕上げていく。

自宅で準備してくること

- ① 左側1マス目と2マス目の間にある二股氷柱と、3マス目にある長い氷柱の形状全体をマスキングする。
- ② 他の氷柱で、陽が当たって白く見える縁部分を、マスキングペンで線を描くようにマスキングする。
- ③ 1回目で描いた右側の上半分と、長い氷柱の上部にある雪景色を自宅で仕上げてくる。

◆第138回活動:2019年4月22日(月) 午後1時から ヌエック研修棟 207号室

4月から会計担当が黒澤さん引き継がれた。部員数が減少してきたので、謝礼や課題写真コピー代などの支出が現在の月額1,500円では不足気味なので「5月から月額2,000円にします」と皆に伝えた。

課題『芦ヶ久保の氷柱』の3回目、今日の活動で仕上げていく。

上部の岩に積もった白い雪と青い影の自宅で仕上げた。宿題で中央の氷柱に各自マスキングを施してきた。

1. 氷柱と氷柱の隙間で、狭く細く尖って見える黒い陰部を描いていく。

- ① 先端の尖って見える透き間影部分に、水彩色鉛筆の少し薄めの黒色で描くように塗り、直ぐに細筆の水筆で先端部から下方へ塗っていく。下方へ行く程淡くしていく。(PYRAMID 水彩色鉛筆 WCP-12)

2. 陽が当たって白く見える縁にマスキングしてきた、氷柱を描いていく。

- ① 青色をパレットに水溶きしておく。
鮮青色、深青色、暗青色
- ② 鮮青色を小筆に取り、氷柱の上部から下部全体に淡く描くように塗っていく。
- ③ ドライヤーで乾かしてから、課題写真を見ながら淡い部分にマスキングを描くように施していく。
- ④ ドライヤーでマスキングインクを乾かしてから、深青色で少し濃い部分を描いていく。次に暗く青く見えるところに暗青色で課題写真を見ながら描いていく。
塗ってきた氷柱全体にマスキングを施していく。

3. 施したマスキングインクを乾かしてから、氷柱の裏側を描いていく。

- ① 全部の氷柱と左右の接している部分にマスキングを施しておく。
- ② 氷柱郡の中程から上部に見える大岩を描いていく
 - (1) 大岩の色をつくる。
深青色+暗青色に黒っぽい紫色を混色し、焦げ茶色を少し混ぜて茶色っぽい影色を水溶きしておく。
 - (2) 大きい平筆に茶色っぽい影色を取り、氷柱の中央部から上部にサーッと平行に動かして塗っていく。
課題写真を見ながら大岩の下部分を見極めて形を整えていく。
- ③ 氷柱郡の大岩下側から最下部を描いていく
深青色と暗青色を混色し、紫色と黒っぽい紫色を混色して暗い影色をつくる。
つくった暗い影色を大きい平筆に取り、淡めに大岩の下側から最下部まで平行に筆を動かして塗っていく。
- ④ ドライヤーで乾かしてから、課題写真を見ながら茶色っぽい大岩に見える岩肌のボツボツ点をマスキングペンで描くようにマスキングしていく。
- ⑤ 暗い影の左端や下部に見える枯れた木の枝など、課題写真を見ながら描くようにマスキングしておく。
- ⑥ マスキングインクをドライヤーで乾かしてから、大岩を前項②の(1)でつくった茶色っぽい影色を少し濃い目にして、大きい平筆で塗っていく。
- ⑦ 大岩下側から最下部までの暗い影部分を、③項で作った暗い影色で、濃い目に大きい平筆で塗っていく。

※ 今日の活動はここまでで終わった。施していたマスキングインクをキレイに剥がし取ってから、課題写真を見ながら大きな氷柱2つを前項2の要領で描いて、仕上げていく。

4. 次回(5月13日(月))の活動内容 ヌエック研修棟 207号室

次回から新たな課題『公園の菜の花』を描いていく。

自宅で準備してくること

- (1) 配られたB4判の課題写真2枚にある白点を目印に貼り合わせて、16等分の白線を引いて手本台をつくる。
- (2) 水張りしたF8のウォーターフォード水彩紙にデッサンをする。
菜の花群を見渡して、ハッキリと4枚の花弁が見えている一番手前の花をデッサンしていく。